

を募ったこと、が挙げられます。

一方、学会員が研究発表の合間を縫って聴講している姿も多く見られ、公開講座を主に参加したいという声もあります。

今回の公開講座の反響は、全国大会の構成に検討を加える必要性を示唆しているように思います。

特別講演にも多くの新潟県民が参加されました。今回の全国大会・公開講座の開催を機に、新潟の地で色彩への興味関心が高まったことは確実でしょう。

今後、定期的に地方開催ができるといいように思います。最後になりましたが、今大会にご協力ご支援を賜った多くの方々に心から感謝の意を表します。

(千葉職業能力開発短期大学校)

## 研究発表

実行委員 武井 昇

研究発表部門は、口頭発表59件、ポスター発表5件の計64件の発表がありました。研究分野毎の発表件数は色覚・視覚(14)、表色・測色(3)、色再現(4)、心理(21)、調和・計画(13)、文化(4)、教育(2)、応用事例(3)でした。本会会員の広がりを反映し、今大会も多彩で充実した発表内容でした。

口頭発表は3階の中会議室を2つに仕切り、それでも十分に広いA、B2会場で行われました。ポスター発表会場は同じ3階のホワイエの一画に、1件あたり幅200cm有効高さ120cmのポスターボードと長机をセットとして設定されました。

口頭発表A会場は電気通信大学の学生の、B会場は女子美術大学の学生の応援を得、また朱鷺メッセの会場担当者もたいへん親切で、会場設営と運営は思いのほかスムーズに行うことができました。

5月17日12時30分、A会場は久下実行委員長、B会場は長谷川副実行委員長の開会挨拶で研究発表のプログラムが開始されました。1日目は15時10分まで、2日目は9時20分から15時40分まで、英語での発表1件を含め、熱心な発表と討議がなされました。ポスター発表講演は1日目の15時10分から16時まで、長谷川副実行委員長の司会で進められました。時間を決めて発表する方式は好評でした。

今年はパソコンとプロジェクタを用いた発表が一段と増えましたが、両会場とも見やすい大きなスクリーンと強力なプロジェクタが設置され、照明コントロールも適切で、聴講者は手元の資料と鮮明なスクリーン画像とを同時に見ることで良かった

と思います。プロジェクタは2台のパソコンからの入力を交互に切り替えて使用する構造になっていましたので、発表開始時にパソコン立ち上げ時間で待たされることはありませんでした。しかし、パソコンからの映像出力の切り替えにとまどって、貴重な時間をロスしてしまうケースが見受けられました。映像出力ボタンの使い方はパソコンの機種によって異なるので、事前のチェックを徹底する必要があるかも知れません。(職業能力開発総合大学校)

## 特別講演 「人・物・心」

実行委員 野坂 瑛子

大会の開催場所「朱鷺メッセ」の名称の審査にもあたられた長岡造形大学学長 豊口 協氏にお話いただく。

デザインを学ぶ大学であるという考えに基づき「世界ではじめて」をキーワードに様々な試みをポジティブに取り組む校風で学生の指導にあたられている。

東京造形大学学長、また企業に席を置かれたご経験を通してのお話は私たち日本人が持ち、また失いつつある意識の大切さを思い出させるものでした。

相手の立場にたって考え、自分自身も楽しんで取り組んだことはそれがどのように小さなことであっても人の心にタッチして、国、文化、時代を超えて繋がっていく、そのプロセスが結果より意味があり、誰もが起きていることに責任があるとは、氏の飾らないお人柄とともに誰もが共感したことでしょう。

退任後は文学の研究に入りたいそうですが、それを果たされるのはまだまだ先のようです。

## 公開講座「楽しく身につく色彩作法：ファッションから住まいの色彩まで」

実行委員 大島 末有希

5月17日全国大会の研究発表前の10時より始まった公開講座「楽しく身につく色彩作法」は、新潟市消費生活センターの共催により予約受付30分で定員40名に達し、最終的には56名の申し込みを受け、後はキャンセル待ちとなった。

公開講座の前半では長谷川理事が日本ペイント(株)より提供の『カラーテキスト』を使いながら色の仕組みやマンセル表色系、配色のためのトーンの考え方や利用法など色彩の基礎知識を講義した。また後半の実習のために用意した『塗料用標準色見本帳(ワイド版)』の使い方も説明し実習担当の遠山、大島にバトンタッチとなった。

先ず実習に入る前に、配色のこつであるまとめるか変化させるかの考え方を色相環とトーン図を使って説明し、用意した配色例を示しながら解説した。

実習が始まると参加された方達は初めて手にした350色もの見本帳にも臆することなく素早く色を探し出し、用意した台紙に貼り込むためそれぞれ目的にあった配色を楽しそうに選択していた。選んだ配色を周りの方と比較しながら自分の選ぶ色の傾向を改めて実感したり、中には非常に個性的な配色をなさる方もいて、それらを皆様に紹介したりして和やかな中に講座は進み、質問の手も沢山上がった。

あっという間に予定の時間となり、まとめの話へと急ぐ私たちに少々時間の超過なんか気にしていませんよ、とばかり参加者の皆様のまなざしは暖かく、大きなうなずきに力づけられて無事講座を終える事が出来た。

参加者からは、「今まで洋服を選ぶ時は店員に勧められるままだったが、今後は今日の講座を参考に配色を考え自ら選んでいきたい。」「若いときは忙しく色には無頓着だった。今日の講座を契機に色彩についても考えていきたい。」「色見本帳を購入し自宅でも勉強したい。」などの声が聞かれ皆様から私共の方が学ばせて頂いたことも多く充実した一日だった。

最後に、配色実習に際して、乃一香織さん、山田昌美さん、三輪佳子さんが快くサポートを引き受け皆様の質問に細やかに応じていただいたことに心から感謝いたします。(群馬のColor風)

## 公開講座「歯科の色彩の現在：歯は白い？ 歯科と色のトレンド」

実行委員 元香 昭夫

澄んだ瞳と白い歯は古来より美人の形容で、明眸皓歯とは歯の美しさに対する歯科医学の審美的要素として現在もっとも重要視されている。

歯科医学は歯科材料の挙動について色彩の基礎的研究を重視する傾向があった。

歯の色は隣接する歯の色にあわせるためのシェードマッチングが日常的に行われ、更に歯を人工的に白くする漂白治療などいずれも色彩学的テーマとして密接に関係する。

この度、日本色彩学会第34回全国大会[新潟] 03における市民公開講座で「歯科の色彩の現在：歯は白い？ 歯科と色のトレンド」というテーマにより日本歯科色彩学会、日本歯科大学新潟歯学部、明倫短期大

学の協賛を得て、現在の歯科と色彩にもっとも造詣の深い3名の先生方(明海大学名誉教授、日本歯科色彩学会会長、日本色彩学会会員、片山伊九右衛門先生；「歯科の色彩」、日本歯科大学新潟歯学部教授 同大学大学院新潟歯学研究所科長、日本歯科色彩学会常任理事、加藤 喜郎先生；「歯の漂白と白さについて」、明倫短期大学、日本歯科色彩学会会員、日本色彩学会会員、木暮ミカ先生；「歯を美しく見せるデンタルカラーコーディネート」)を講師に、それぞれのテーマの司会進行をカラーランド研究所、日本歯科色彩学会副会長、日本色彩学会会員の元香により開催された。以下要約。

片山講師；審美には大きく分けて形態、機能、色彩の3部門があって、色彩はその中の1部門にあり、多くは物理学の範疇と考えられがちであるが、心理学、生理学、化学などの基礎学問、環境工学などの応用面、ファッション、デザインなどの感性面、さらに歴史をふまえた総合的な学問で、日本歯科色彩学会は10年前に、これらをもとに歯科医学、歯科医療に貢献するために設立しました。

加藤講師；歯の治療は患者とのコミュニケーションが大事で、患者さん夫々の顎形態に対して適切な審美的修復が行われ、漂白の効果も単純な色彩の白を目指すのではない形で行っている。このような背景として大学に通院する患者の意識調査や歯の治療に対する細やかなアンケートから今後の歯科治療に役立てることが、美しい歯の色を考える要因と考えている。

木暮講師；歯を白くするホワイトニングが割とポピュラーな治療法として脚光を浴びておりますが、局所的な白さのみを追求するあまり、顔面をトータルにカラーコーディネート出来ていないケースも多々見受けられるように思われ、患者さんの顔面を魅力的にするという点で疑問に思われるケースもあります。歯を治療する際の審美性について、特に顔面における色の健康的な調和という観点から、総合的な色の調和を図るにはどうすべきかと話された。

(カラーランド研究所)

## 公開講座：「動きが生みだす視覚世界-右脳発掘のヒント」

実行委員 松田 陽子

本講座は、新潟県教育委員会の後援のもと、小町谷朝生先生(文星芸術大学教授、色彩学会副会長)、並